

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	かのん			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 17日 ~ 2025年 12月 5日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 10日 ~ 2025年 12月 17日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 29日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各児童にそのとき必要な支援内容を考え、個別療育をしている。	どこまでできるか職員同士で確認を行ない、難しい場合は支援内容の変更をしている。 また、児童が自分で考え、成長が自ら感じられるような取り組みを職員で共有している。 毎回違う職員が療育を行うようにしている。	支援内容など固定化せず、常に新しい支援内容など考え、個別療育を取り組んでいく。
2	集団療育では児童が楽しいと思え、苦手なことなど自己確認ができる運動と認知を取り組んでいる。	児童ひとりひとりができるかできないかなど見極めつつ、運動、認知の集団療育を楽しめるように工夫している。	今後も新しい内容を取り組み、児童が「できることが増えた」と実感できるように楽しんで学べる内容を取り組んでいく。
3	土曜日に4年生～6年生の児童で、文章作成やグループワークを取り組んでいる。	その時の児童の状態を考え、内容を決めている。 グループワークでは、児童の組み合わせなども考え、各自が必要と思えるメンバー構成をしている。	今後も常に新しい発想を取り入れ、「こういう面白い内容もあるんだ」と児童が実感できる内容を提供できるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育が主になるため、利用できる地域が限定されている。	送迎に片道10分以上の送迎場所が難しいこと。	保護者送迎、自力通所であれば利用可能。
2	児童が自力通所の場合、保護者と会う機会が少ないため、保護者とのコミュニケーション不足がある。	自力通所をしている児童に関しては、自宅送迎をしている児童より保護者とのコミュニケーションが少ないと感じている。	モニタリング以外に月に1回または2ヶ月に1回の面談が必要と思う。
3			